※令和４年度以降入学生用

| 学校番号 | T2101 |
|---|---|

# 令和５年度　家庭科

| 教科 | 家庭科 | 科目 | 家庭基礎ａ | 単位数 | １単位 | 年次 | １～４年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 家庭基礎「気づく力　築く未来」　（実教出版） | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

## １　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〇家庭生活に必要な基礎的な知識や技術について学習します。
〇人の一生で起こる様々な問題や課題を見通し、多様な考えを知り、自分なりに、自分のペースで考えを探すことのできるような学習をします。
〇学んだこと、考えたことを自分の生活に反映させ、よりよい生活をめざします。

## ２　学習の到達目標

・実生活に必要な基礎的・基本的な知識と技能を身につける。
・家庭や地域の生活課題を考え、解決策について記述も含めた発表をすることができる。
・生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を養う。

## ３　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え，家族･家庭の意義，家族･家庭と社会との関わりについて理解を深め，生活を主体的に営むために必要な家族･家庭，衣食住，消費や環境などについて理解しているとともに，それらにかかわる技能を身につけている。 | 生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 | さまざまな人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活を創造し，実践しようとしている。 |
| 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。 | | | |

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| ４月前半 | 第1章　これからの人生について考えてみよう | 家庭科を学ぶにあたって<br><br>1節<br>自分の未来予想図を描こう～生涯発達と発達課題～ | a：自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートなどを通して，自分や，人の一生についての考えをまとめることができる。<br>b：人生の各ライフステージの特徴と課題について知り，少子高齢社会，男女共同参画社会などの社会状況を考えながら，自分の生活や将来について考えを深め，発表などを通じて考えを表現することができる。<br>c：現在の自分のこと，将来の生活設計を考えることについて，意欲を持ってとりくもうとしている。 | 授業プリント | ワークシート | 授業へ取り組む姿勢 |
| | | 2節<br>これからの人生をデザインする | a：自分自身や現在の社会状況を客観的に知り，将来を見通した人生設計への課題をみつけることができる。<br>b：自分の近い将来についてのキャリアや生活についての設計を考え，ワークなどを用いてそれらを具体的に描いていくことができる。 | 授業プリント | ワークシート | |
| | 第2章　自分らしい生き方と家族 | 1節<br>自立と共生 | a：青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できる。<br>c：男女共同参画社会など，現在の社会的状況について，興味を持って知ろうとする態度がある。 | 中間考査 | | 授業に取り組む態度 |
| | | 2節<br>ライフキャリア | a：・生活にかかわる労働の意義，また，現在の労働環境などについて理解できる。<br>・現在の生活時間の状況をふまえ，生活時間と労働との関係について理解できる。<br>c：労働の意義や役割，労働時間と生活時間との関わりについて関心をもち，現在の家族・家庭がかかえる課題を見いだそうとする。 | 授業プリント | | 授業に取り組む態度 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月後半 | | 3節<br>共に生きる家族 | a:結婚，家族・家庭の多様化や，時代とともに変化する役割について理解できる。<br>b: ・図表などから家族の形，家庭のあり方や役割について，また時代とともに変化した背景について読みとることができ，現在の家族・家庭のあり方や役割について考えを深め，表現することができる。<br>・家族・家庭に関する課題・問題点について，社会的な制度，労働環境や雇用情勢などの背景も考慮しながら原因を推測し，解決へ導くための考えをまとめ，レポートを通して発表することができる。<br>・家族の変遷や家族に関する意識の変化，さらには，現在の家族の抱える問題・課題などについて，情報を収集し，自らの考えをまとめることができる。<br>c: 結婚，家族・家庭の形，家族・家庭の役割について，自分とどうかかわっているのか，興味・関心をもとうとしている。 | 授業プリント<br>中間考査 | ワークシート | 授業に取り組む態度 |
| | | 4節<br>家族に関する法律 | a: 家族に関する法律についての知識を身につけている。<br>c: 家族，家庭生活に関する法律について関心を持ち，家庭生活と法律との関係について，理解をしようとしている。 | 小テスト<br>中間考査 | | 授業に取り組む態度 |
| 5月前半 | 第3章　子どもとかかわる | 1節<br>子どもとは | c: ・子どもの世界について，自分の子どもの頃を思い起こしながら，興味・関心を持ち，子どもの生活について，積極的に子どもとかかわりながら，理解しようとする。<br>・生命の尊さについて，自分の現在，将来と結びつけながら，学習しようとする意欲がある。 | | | 授業に取り組む態度 |
| | | 2節<br>子どもの発達 | a: 子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。<br>b: 子どもの心身の発達，現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について，課題を見つけ，解決への考えをまとめることができる。 | 中間考査 | 授業プリント | |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 3 節<br>子どもの生活 | a：子どもとの接し方，子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。<br>c:子どものためのおもちゃづくり，お菓子づくりなどの実践活動に，積極的に参加し，子どもの発達の様子や生活に興味・関心をもとうとしている。 | 実習 | | 授業に取り組む態度 |
| 5月後半 | | 4 節<br>子どもをはぐくむ | a：生命の尊さ，子育ての意義について理解することができる。<br>b：子どもとふれあう際の注意事などを、ワークシートを用いてまとめることができる。<br>c：子どもをとりまく状況について，現状を知り，その課題を見つけ，解決に向けて考えようとしている。 | 中間考査 | ワークシート | 授業に取り組む態度 |
| | | 5 節<br>子どものための社会福祉 | a：子どもの発達段階において，子どもをとりまく人とのかかわり，地域環境・社会環境の重要性，子どもの福祉について理解できる。<br>b：子どもの生活やとりまく環境，また，現在の子育ての環境や地域社会や国の支援策や課題などについて，情報を収集し，まとめることができる。 | 小テスト<br>中間考査 | 授業プリント | |
| 6月前半 | 第4章　高齢者とかかわる | 1 節<br>高齢社会に生きる | a：高齢化社会の現状や課題について情報収集，調査・研究をし，課題解決に向けて考えをまとめることができる。<br>b：高齢社会の課題やその解決にむけて，新聞記事などを収集し・分析する課程において，課題の発見，解決の方向を導き出すことができる。<br>c：高齢社会の現状，高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り，高齢者とかかわろうとしている。 | 授業プリント | 授業プリント | 授業に取り組む態度 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 2 節<br>高齢者を知る | a：高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴について理解している。<br>b：・高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより，高齢者の自立した生活とは何か，自分の考えをまとめることができる。<br>・高齢者を知り，高齢者とかかわることで，高齢社会に関する課題を導き出すことができ，それをレポートなどで表現することができる。 | 授業プリント<br>中間考査 | ワークシート | |
| | | 3 節<br>高齢者の自立を支える | a：・認知症の高齢者と接するときに必要な心がけを理解している。<br>・介助技術や車椅子の扱い方を理解している。<br>b：要介護の高齢者と接する上で気をつけるべきことを考えることができる。 | 実習<br>中間考査 | ワークシート | |
| | | 4 節<br>高齢社会を支えるしくみ | a：・高齢期を支える社会的な制度・しくみについて理解している。<br>・高齢者の生活における地域社会の役割，地域福祉の重要性について理解できる。 | 授業プリント<br>中間考査 | | |
| 6月後半 | 第5章　社会とかかわる | 1 節<br>支えあって生きる | a：社会福祉の意味，現在の社会福祉の状況，社会保障制度のしくみについて理解できる。<br>b：社会福祉や生涯を通しての社会保障制度のしくみについて，現在の生活課題と関連させながら考えることができる。<br>c：生涯を通しての社会福祉・社会保障のしくみや地域での支え合いのしくみについて意欲的に理解しようとしている。 | 授業プリント<br>期末考査 | ワークシート | 授業に取り組む態度 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 2節<br>共生社会を生きる | a：ボランティア活動の意義について理解できる。<br>b：・自分たちの暮らす地域の福祉について，調査などを行い，自分でできることは何かを導き出すことができる。また，参加した活動についてレポートにまとめることができる。<br>・支え合う社会とは何かを主体的に考え，社会福祉についての考えをまとめることができる。また，社会において自分のできることは何かを導き出すことができ，それを支えあいの活動などの実践に生かすことができる。<br>c：社会の一員としての自覚を持ち，ボランティア活動や支え合う活動への興味・関心を持って，調査・参加しようとしている。 | 授業プリント | ワークシート | 授業に取り組む態度 |
| | ホームプロジェクト　学校家庭クラブ活動 | | a：・家族の生活時間や，食・衣・住に関すること，ボランティア活動など，自分で関心のあること，また生活から見えてくる課題を探すことができ，それに対する具体的な解決方法を考えることができる。<br>b：・自身の活動についてレポートにまとめることができる。 | 授業プリント | ワークシート | |
| 7月前半 | 第6章　食生活をつくる | 1節<br>日本の食文化の形成 | a：日本の食文化について，成り立ちや特徴を理解できる。<br>b：・自分の地域の郷土料理について，歴史や料理の作り方を調べてまとめることができる。<br>・自分の地域の郷土料理と他の地域の郷土料理を比較し，違いを自分の言葉で表現できる。 | 授業プリント<br>期末考査 | ワークシート | 授業に取り組む態度 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 2節<br>私たちの食生活 | a：食事の意義や役割，食生活をとりまく環境などについて，現代の食生活の課題が理解できる。<br>b：自身の食生活や現在の食生活の課題を発見し，課題解決のために思考し，解決にむけての判断ができる。<br>c：自分自身の食生活について関心をもつとともに，自分や家族の食生活について意欲的に改善・向上に努めようとする。 | 授業プリント<br>期末考査 | ワークシート | 授業に取り組む態度 |
| 7月後半 | | 3節<br>栄養と食品のかかわり | a：栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ，それを実際の食生活に生かすことができる。<br>c：食品と栄養，調理との関係において，科学的な視点をもって，知識を深めようとしている。 | 授業プリント<br>期末考査 | | 授業に取り組む態度 |
| | | 4節<br>食品の選び方と安全 | a：・旬の食材にはなにがあるか，なぜ旬の食材がよいのかを理解している。<br>・食中毒の予防法や，食品添加物の特徴をとらえることで，安全な食品について理解している。 | 授業プリント<br>小テスト<br>期末考査 | | |
| | | 5節<br>食事の計画と調理 | a：・栄養・食品・調理に関する基礎的な知識を生かしながら，献立を作成することができる。<br>b：・栄養の機能と食品のかかわり，また食品の特性と調理との関係において，科学的な思考を身につけ，食品選択，栄養計算や献立作成など，実際の食事づくりにむけての判断ができる。<br>c：栄養計算や献立作成においては，積極的に取り組もうとしている。 | 授業プリント | ワークシート | 授業に取り組む態度 |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度